

## 第3回 生駒市総合計画審議会（全体会）会議録

開催日時 令和5年7月18日（火）13時30分～16時00分

開催場所 コミュニティセンター 2階 201・202会議室

出席者

（委員）大谷委員、清水委員、高取委員、田中委員、久委員、森委員、伊藤委員、  
楠委員、鐵東委員、中垣委員、藤尾委員、松山委員、上山委員、山上委員

欠席者 和田委員

（事務局）小林市長公室長、坂谷市長公室次長、増田企画政策課企画官、  
牧井企画政策課課長補佐、桐谷企画政策課企画課員

（事業者）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 島崎主任研究員

議事内容

1 開会

2 案件

（1）総合計画進行管理検証報告書（案）について

（2）第2期基本計画（案）の策定について

（3）その他

3 閉会

以下、発言要旨

1. 開会

【事務局】 （開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

3. 案件

（1）総合計画進行管理検証報告書（案）について

【久会長】 今回は、令和4年度進行管理検証報告書の内容確認と第2期基本計画（案）について審議する。

それでは、「総合計画進行管理検証報告書（案）」について、事務局か

ら説明をお願いします。

【事務局】 (資料1-2について説明)

【久会長】 議論の前に、各部会長から部会で審議に関する内容や今後の改善点などについて、コメントを頂戴したい。

【森委員】 第一部会の審議では、積極的かつ前向きに意見交換をすることができた。例えば、進行管理検証報告書の42ページ「細分野② 地域活動」について、若年層の自治会加入率の向上に向けた議論を行った。若年層は自治会を敬遠しているのではなく、単に加入のきっかけがないだけであること。そのため、自治会は高齢者が多く、デジタルを活用した取組を通じて若年世代とつながる仕組みづくりなど、積極的な意見交換が見られた。担当課も様々な気づきがあったのではないかと思う。

【高取委員】 第三部会では、健康づくりや教育、生涯学習などの分野を担当した。部会では委員から積極的な意見があり、担当課からも適切に回答していただき、概ね順調に進んだ。

ただし、「5年後のまち」に記載されている内容が、計画期間内で達成できない恒久的な目標となっているものもあり、進行管理の難しさを感じる場面があった。改めて、進行管理ができる具体的な目標の必要性を感じた。

【久会長】 第二部会では、担当課の評価が低くなっているものが見受けられたので、進捗を再度確認の上、内容に応じて評価を上げるなどの意見をした。例えば、検証報告書の54ページ「細分野① 上水道」について、現在、すでに安全安心な水を供給できており、第1期基本計画で目指す5年後のまちは達成できているが、将来的な課題を理由に評価をB1としていた。あくまで、目標に対する現在の状況で評価するよう指摘した。

また、市の努力だけでなく、市民の協力がないと達成できないこともある。例えば、コミュニティバスの乗車人数という指標があるが、市がどれだけ啓発しても、市民が乗らない限り乗車人数は増えない。市民への意識啓発にとどまらず、より具体的な対策が求められると意見した。

【久会長】 それでは全体の議論に入る。進行管理検証シートの右下にある「審議会からの提言等」に書かれている内容に間違いはないか、または他部会の内容に対する質問等はあるか。

【楠委員】 久会長が仰った通り、市役所職員だけで達成できないものは多々あると感じる。また、担当課だけではなく、職員間の連携が必要な案件も多くあるのではないか。もちろん、市民と職員との連携は重要であるが。行政内部の横連携については、どこかに表現しているのか。行政として一枚岩になって取り組むことが大切である。

【事務局】 検証報告書の74ページ「細分野③ 行政組織」に、内部連携について記載している。75ページの「基本計画で残った課題」に記載しているとおり、様々なプロジェクトチームが立ち上がったが、部門を超えた取組が生まれにくい状況だと感じているので、職員の意識改革や連携が生まれやすい仕組み作りを検討する必要があると認識している。

【久会長】 第2期基本計画の策定に向けて、職員間で連携する視点を反映することが求められる。

【森委員】 第2期基本計画では経営的施策として、「スマートシティ・DX」「市民協働・公民連携」「広報広聴・シティプロモーション」「行政経営」を設ける予定であり、各基本施策を横断的にカバーする作りになっているため、楠委員のご意見は一定程度反映できると思われる。

【伊藤委員】 検証報告書の54ページ「細分野① 上水道」について、なぜ評価がB1からAに変更されたのか。

【久会長】 当初のB1という評価は、今後の懸念材料を加味して評価しており、現在、5年後のまちに記載している安全安心な水道水の供給は実現できている。今後の懸念材料で評価を落とす必要はない。

水道料金やこれからの経営状況、あるいは水道管の老朽化による取り替え費用の問題など、今後に向けて様々な懸念材料はあるが、現在の評

価に影響を与えるものではない。

【久会長】 検証報告書は事務局案から修正せず、答申書を付して本審議会としての答申としてよろしいか。

【その他委員】 (異議なし)

【久会長】 資料1-1の答申書のとおり、答申する。

【事務局】 報告書はホームページで公表し、また議会へも報告をする。

(2) 第2期基本計画(案)の策定について

【久会長】 「第2期基本計画(案)の策定」について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】 (資料2-1、2-2、2-3について説明)

【久会長】 内容が多岐に渡るため、章ごとに審議を行う。

まずは「序章 第2期基本計画の策定に当たって」について、3ページには、デジタル田園都市国家構想総合戦略などと基本計画の関係について記載されているが、分かりにくいと感じた。基本計画と総合戦略を統合した総合計画を、新たに生駒市デジタル田園都市構想総合戦略とするとある。基本計画そのものが総合戦略を兼ねるということか。もしくは基本計画の戦略的施策を抜粋して、総合戦略として位置付けるのか。総合戦略はターゲットを絞っていたため、基本計画全体を総合戦略と位置付けることは難しいと感じている。今回はどういう位置付けにしているのか。記載方法等は慎重に検討されたい。

【事務局】 戦略的施策を総合戦略に位置付けるよう検討している。なお、紐づける範囲や方法については、現在検討している。また、総合計画に関連する具体的な事業は、アクションプランとして定めるよう、併せて検討している。総合戦略についても、アクションプランに紐づく想定している。

【久会長】 他市では、戦略的政策をそのまま総合戦略としている例もある。冊子として別物にするのか、一体化するのか、様々なまとめ方が考えられるので、今後検討されたい。

【森委員】 現在の総合計画と総合戦略の関係性を確認したい。

【事務局】 総合計画の小分野では、行政の5年間で主な取組や具体的な事業を記載しており、人口減少問題に対応する内容を、総合戦略として特出しして、内容を深めている。特に、本市の場合は女性の潜在的な労働力が見込まれているため、その力を活かしたまち・ひと・しごと創生総合戦略としている。デジタル田園都市国家構想総合戦略では、従来の総合戦略にデジタルの要素が含まれるため、より広範囲にわたる内容になる。総合戦略と総合計画の関連などは、今後詳細を詰めていく。

【久会長】 総合計画と総合戦略は別のものであり、総合計画の中からピックアップをした内容を、総合戦略として再度編集し、事業レベルまで見えるような形で落とし込んでいる。

また、資料2-1の5ページでモニタリングやオルタレーションといった言葉を記載しているが、普段使用しない言葉をあえて英語で書く必要はない。

【久会長】 続いて、「第1章 生駒市の概況」について、あくまで基本計画のための概況である。一般的な市の概況を記載するのではなく、基本計画の内容とリンクするよう内容を精査されたい。裏を返すと、市の代表的なものであっても、基本計画内でフォーカスしないのであれば記載する必要はない。

一方で、市の東側に矢田丘陵、西側に生駒山系があり、東西のどちらを見ても緑が見えるという地勢は、基本計画に記載する豊かなみどりに繋がる内容である。また、富雄川沿いと竜田川沿いの二つの谷は、水系が異なるため、歴史的な経緯から文化も違う可能性がある。白庭台やあすか野周辺の丘陵が二つの谷を隔てているという構造が、生駒のまちを歩いているとわかる。また、その丘陵部にニュータウンが開発されている

ることが、生駒の地勢からくる非常に重要な成り立ちだと思う。基本計画に関係ないところは詳細を省くなど、メリハリをつけられたい。

【久会長】 続いて「第2章 本市を取り巻く社会環境の影響」について、コロナ禍に対する評価は記載するのか。再度パンデミックが起きた際に対応できるよう、もう一度評価した方がいいのではないかと思う。

【事務局】 「安全・安心への迅速な対応」において、記載するよう検討している。

【久会長】 ChatGPTを始めとする生成AIが、急速に実用化されてきた。行政のリソースに限られる中で、大きな影響を与えると思う。記載を検討されたい。

【事務局】 現在策定を進めているスマートシティ構想の内容を確認し、総合計画に記載する内容等を検討する。

【久会長】 新型コロナウイルスへの対応のように、発生後の対処ではなく、事前に様々なことを想定することが重要である。

【楠委員】 「脱炭素社会に向けた取組の拡がり」について、生駒市が脱炭素先行地域に選ばれたことは行政としての成果だと思う。もっと堂々とPRして市民を巻き込み、市も一体となって進めていくよう意識してもらいたい。

【久会長】 全体的に課題ばかりを記載するのではなく、地域にある生駒市ならではの資源や、これまで市が取り組んできた成果も記載すると良い。

【久会長】 続いて、「第3章 まちづくりの総合指標」について、意見などはあるか。

【鐵東委員】 目標設定について、根拠はあるのか。チャレンジングな目標を掲げれば、必然的に達成に向けて取組が増える。目標の設定次第で取組に影響

が出るため、目標値は精査が必要である。

「本市に住んでいることに誇りを持っている市民の割合」と「本市への居住を知人に薦めたいと思う市民の割合」は関連性が強いと感じる。

【久会長】 第1期基本計画でEBPMの推進を掲げていたが、対応は十分とは言えないので、今後はより一層証拠に基づく政策作りを進められたい。数値目標を掲げるには根拠が必要。「総合指標① 働き盛り世代の純移動数」についても、各施策の結果として、実績が積みあがって400人になるはずである。

定住意向についても、4%上昇させる目標に対して、どのように取組を進めるか検討が必要である。今までも啓発を進めているが、より一層数値を上げるためには、施策や事業レベルで内容を検討する必要がある。

【松山委員】 子育てしやすいと評判のまちには人が集まる。市民でも市の事業を知らない人が多くいる。市民に対するPR方法についても、検討を進めることで、若い人をもっと増やしていくことができると思う。

【清水委員】 働き盛り世代という言葉には、良いイメージを持たない人もいないか。選択されるまちを目指すという趣旨であれば、年代ではなく子育て世代等、人口増加に向けた視点を盛り込む方がよいのではないか。また、将来都市像の実現に向かう取組かと思うが、戦略的施策との関係性など教えていただきたい。

【事務局】 働き盛り世代という表現は、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略から使用している文言である。それまでは子育て世帯を対象としていたが、「まち・ひと・しごと」という観点から考えると、多様な働き方や生き方が増えている現状にそぐわないため、表現を変更した。働き盛り世代という表現が、対象者を絞る印象を与えるのであれば、表現方法を検討したい。

【森委員】 総合戦略は人口減少への対策が中心であり、子どもを産み育てる前提の年齢設定である。総合計画は行政全般にわたる計画なので、対象者の

年齢を絞ると狭い印象を受ける。

【大谷委員】 働き盛り世代として年齢を区切ると違和感が生じるので、そもそも年齢要件が不要だと思う。60歳以上でも活発に働いている人は多くいる。

【事務局】 本市に限ったことではないが、年齢が上がると定住意向は高くなる傾向が見られるが、そういった層には市として戦略的に取り組めることが少ないと考えている。一方で、若年層はライフステージの変化等、選択する機会が多くあるので、その中で生駒市を選び続けてもらうための戦略が必要という観点から、働き盛り世代の定住意向を指標案とした。将来都市像の実現に向けて、戦略的に取り組むものとして位置付けており、総合指標と戦略的施策は近いと考えている。

【久会長】 戦略的に施策を進めることで、総合指標の実績が良くなり、将来都市像の実現という目標に近づくという構図かと思う。

12ページに記載されている戦略的施策の内容が、8ページと9ページの総合指標にピックアップされる関係性だと思う。それぞれの戦略的施策にKPIがあり、それが8ページ9ページに記載される。将来都市像の実現に向けて、総合的に進捗を追っていくのか、もしくは個別の戦略的施策を追うことが総合指標の達成につながり、ひいては将来都市像に近づいていくと考えるのか、今後検討されたい。

【鐵東委員】 子育て世帯が転入したいと考えても、賃貸住宅が少ないなど、住居に関する選択肢が少ない。賃貸住宅等を増やすことも戦略的施策にあたるのではないか。給付金等も活用できるかもしれないが、長期的に考えると、結婚しやすい環境づくりや住居に関する環境を整えることも重要である。現状、戸建が多いベッドタウンであるので、生駒市は転入に対する敷居が高い印象である。

【森委員】 行政改革推進委員会では、総合計画に記載している事業をすべて実施した場合、コストが膨大になると懸念している。できる限り効果がある内容を見極め、実施手法も併せて検討することで、常識的な財政見通しで、

総合計画で定める目標を達成してほしい。

【久会長】 EBPMの観点から実施した施策を評価し、効果がある取組を追っていく事が重要である。

9ページの総合指標④について、「多様な人との関わり」という文言は評価が難しい。「多様な」ということは、単に地域の人との関わりとは異なると思うが、それぞれの感じ方は異なるので概念の共有が難しく、アンケートでも答えにくい設問になってしまう。工夫が必要である。

【高取委員】 「多様な」という言葉に込められた意図は何か。多世代とも違うので、質問の意図を確認したい。

【事務局】 単に近所に住む人などではなく、まちづくりをテーマにした場に出会った人など、従来の生活とは異なる新しい人のつながりなどをイメージしている。

【高取委員】 地域力の指標として、近隣住民の付き合いの程度などを評価するものがあるが、そちらに近い印象を受けた。

【伊藤委員】 「施策1 市民自治・学び」の市民自治について、行政から見た市民自治と一般市民が感じる市民自治と、意味合いが異なると思うが、どのように捉えているか。

【事務局】 前回の会議では市民協働という、より広い概念で施策案を提出した。今回は行政がすべきこととして整理し、市民協働を経営的施策に移した。基本施策については、市民へのサービスを行政としてどのように担っていくのか、という目線で考えており、市民自治については、市民が活動することをバックアップするよう検討している。

【久会長】 市民自治という言葉の意味をイメージしづらいという意見をいただくことがあるが、簡単に表現すると、地域の問題を自分たちで解決することだと思う。もちろん、基本的には市民の活動であるが、市がサポートすることがあるので、基本的施策に位置付けている。

- 【田中委員】 指標同士関連しているものが多いと感じる。誇りや愛着、シビックプライドは概念的で、測ることが難しいと感じる。指標ごとの関係性などもあるのか。
- 【事務局】 市民実感度調査の設問として、第1期基本計画に記載している指標とリンクしており、今回も参考にして作成した。指標ごとの関連は考慮していない。
- 【久会長】 市民実感度調査で取得したデータをもとに総合指標を検討したとのことであるが、まちづくりの進捗を図るという意味合いでは、新たに市民実感度調査以外のデータを集めることも必要ではないか。
- 【事務局】 現状値が把握できるものを設定する想定であったため、市民実感度調査の数値を参考にした。
- 【久会長】 新たにアンケート等を実施して数値を把握するというのではなく、例えば地域経済循環率のように、他課で既にデータを保有していることも考えられる。情報収集に努められたい。
- 【事務局】 将来都市像である「自分らしく輝けるステージ・生駒」の進捗を測る指標を設定したいと考えているので、市民の実感や感じ方を基本として考えている。
- 【久会長】 「自分らしく輝けるステージ・生駒」とはどういうことを表しているのか。そのことを突き詰めて考えていく事で、おのずと必要な指標が分かると思う。
- 【楠委員】 総合指標⑤と⑥の数値も似たものになる。生駒市に住み、素敵だと思えば誇りを持ち、周囲に薦めると思う。総合指標④の多様な人に関して、市民間の交流に前向きに取り組む人の割合としてはどうか。
- 【久会長】 続いて、「第4章 施策体系」について、ご意見等はあるか。

- 【 森 委 員 】 「施策12 まちの空間づくり」について、地域コミュニティや市民協働の要素を入れるか。
- 【 事 務 局 】 前回の審議会でも議論があり、市民協働は経営的施策に移した経緯がある。基本的施策の一つである「まちの空間づくり」に入れてしまうと、本来市民協働が意味する内容よりも狭い範囲になってしまう。コミュニティという言葉がもつ本来の意味合いも、もう少し広い概念であるという意見もいただいたので、再度整理したものである。
- 【 森 委 員 】 まちの空間づくりに紐づくものは、ハード事業が中心になるのではないか。ただし、地域のつながりも重要な要素であるので、地域コミュニティ以外の言葉を追加できないか。
- 【 事 務 局 】 経営的施策は基本的施策全体にかかる土台のようなものである。経営的施策に市民協働を入れることで、まちの空間づくりにおける市民協働など、全体をカバーすることができる。
- 【 久 会 長 】 各課が施策を作る段階で、経営的施策の視点を追加できるよう連携することが必要である。
- 【 鐵 東 委 員 】 まちの空間づくりとはどのようなイメージか。空間という言葉が気になる。
- 【 事 務 局 】 資料2-3「施策体系案」に記載のとおり、拠点整備や住宅、緑環境等を想定している。
- 【 久 会 長 】 他市ではハード面の整備を「街」、ソフト面を「まち」として表記している。今回の施策ではまちの空間づくりなので、ソフトも含めてまちをよくするために取り組むということである。
- 【 森 委 員 】 「施策6 地域福祉」の内容はどのようなイメージか。

- 【事務局】 対象者が明確な高齢者と障がい者を「施策5 高齢者支援・障がい者支援」としている。地域の見守りや社会活動、地域の横のつながりなどの取組を「施策6 地域福祉」としている。松山委員が所属する民生・児童委員連合会との連携や藤尾委員の食育の取組との連携などを含む。また、介護手前の人の支援なども想定している。
- 【藤尾委員】 「施策6 地域福祉」は地域とのかかわりを持つことであり、介護保険の認定より少し手前にいる人を、どのように支えていくかを考えるものだと思う。
- 【松山委員】 「施策6 地域福祉」には、高齢者に関することや子どもに関することも含まれ、より広い概念になると感じる。
- 【久会長】 地域福祉計画は、専門職を横でつなぐ役割もある。「施策5 高齢者支援・障がい者支援」は主に専門職で対応すること、「施策6 地域福祉」は地域の人と協働で対応していくことという整理もできる。
- 【事務局】 本市は急速に高齢化が進行していくので、認知症等の支援も含めて、特だしするためにも、「施策5 高齢者支援・障がい者支援」として施策を設定した。もちろん、高齢者や障がい者への支援が地域福祉に含まれることは承知しているが、4年間の取組として検討する際に、施策を2つに分割した。
- 【藤尾委員】 「施策5 高齢者支援・障がい者支援」については、専門職の支援及び介護認定を受けた人の支援とし、「施策6 地域福祉」については、施策の名称にこだわりがないが、地域で対応できることという視点は残してほしい。生駒市は介護認定を受ける前の人の支援に力を入れている。「施策5 高齢者支援・障がい者支援」の対象から漏れる人を支えるのも地域福祉である。
- 【久会長】 福祉に関する内容は範囲が広いので、一つの施策にまとめると評価が難しくなる。

【高取委員】 高齢者支援という言葉には、専門職以外が担える生活支援の要素も含まれる。また、障がい者支援という言葉には、子どもから高齢者まで対象になるので年代の区分が無くなる。「施策5 高齢者支援・障がい者支援」を専門職による支援、「施策6 地域福祉」を地域の支えとすると、整理が難しくなる。

【久会長】 専門職と非専門職という考え方もあるが、人にターゲットを当てたものを「施策5 高齢者支援・障がい者支援」、地域で総合的に取り組むものを「施策6 地域福祉」という考え方もできるのではないか。

【松山委員】 「施策1 市民自治・学び」に関して、市民自治協議会をイメージしているのか。

【事務局】 施策1で表す市民自治は、市民自治協議会を指しているわけではない。もう少し広い意味合いで、市民が地域に関わり、自分たちでまちを治めていくということである。

【久会長】 施策体系の柱建について、現行案で進めて良いか。

【その他委員】 (異議なし)

【久会長】 続いて、「第5章 戦略的施策」について、意見などはあるか。

【田中委員】 図の矢印は何を意味しているのか。楽しみが仕事になっていたり、好きが高じて仕事になったり、様々なパターンが考えられる。矢印よりもグラデーションの方が良いのではないか。暮らし方と住まい方について、まちづくりは両方に関わることであるが、住まいになると住居に依存する印象である。暮らしについては、もう少し広い印象になるよう表現できると良い。

住みやすさは定住につながりやすいと感じるが、暮らしやすさについては相関が薄いと感じる。

【久会長】 現在「暮らし(住)」「しごと(職)」「たのしみ(遊)」となっている

が、そもそも3つに分ける必要があるのか。仕事として働いて、空いた時間に遊ぶという従来型の考えになっているのではないか。多様なライフスタイルが増えており、それぞれの境目はあいまいになっている。

【大谷委員】 「楽しみ(遊)」について、(遊)を(集)に変えることも一つの案ではないか。言葉を変えることで与える印象が変わる

【久会長】 続いて、「第6章 行財政改革の考え方」について、意見などはあるか。

【森委員】 行政改革推進委員会からは、事業実施に要する経費の点を懸念する声がある。事業の効果をしっかりと確認したうえで、コストと成果のバランスが良い事業を検討されたい。

【久会長】 金銭的な内容だけでなく、行政改革についてもしっかりと書き込んでほしい。生成AIの技術革新など、今後行政の仕事や組織の在り方は大きな変革を迎えるはずである。

【久会長】 続いて、「基本計画各論」について、意見などはあるか。

【森委員】 経営的施策は各施策にまたがるが、どのように反映していくのか。横軸を通しての意味をどのように表現するか。I～IVの全てを入れる必要はないが、記入する欄などを設けてはどうか。

【事務局】 各施策を作成する段階で、経営的施策の内容が反映できるように調整する想定である。

【久会長】 4つの経営的施策を色分けして、基本的施策の施策別シートにアイコンなどで表示すると分かりやすくなるのではないか。また、施策別シートの様式を変えた理由は何か。

【事務局】 経営的施策は基本的施策を進めていくうえで土台となる部分である。また、指標を設けていないなど、基本的施策と体裁が異なるため、シートを分けている。

- 【久会長】 経営的施策について、各施策の横ぐしを通していくものであれば、施策別シートを1ページにまとめるのではなく、様々な情報を記載した方が良いのではないか。
- 【事務局】 経営的施策に関する内容を、基本的施策ごとに記載すると重複してしまうと考えている。経営的施策の施策別シートには、全分野にまたがる内容を記載したい。
- 【久会長】 例えばDXについて、今後情報政策は一層重要になる状況で、単に1つの施策として進めるのではなく、総合的な政策として展開してほしい。DX担当者はシステム構築や基盤整備を進め、各課はシステム等を道具として使用するので、関わり方が異なる。施策別シートに記載する内容も異なる。
- 【清水委員】 基本的施策の施策別シートに、経営的施策に関する内容の記入欄があればよいのではないか。
- 【森委員】 横ぐしを通すために経営的施策を設定しているのであれば、基本的施策の施策別シートに内容を記載することで、評価することができるのではないか。
- 【久会長】 基本的施策の施策別シートは、内容が盛りだくさんになるので、経営的施策の要素を盛り込むことは難しい。経営的施策のシートに記入欄を設けてはどうか。
- 【事務局】 経営的施策は市としてどのように取組を進めていくか、という内容を記載する想定である。例えば、経営的施策の市民協働では、市民協働を図りやすい制度や環境の整備を進めていくといった内容を記載する。基本的施策では、それぞれの施策の取組を進めるうえでどのように協働していくか。
- 【久会長】 再掲になっても構わないので、経営的施策の施策別シートに内容を記

入すると分かりやすくなる。財政面の効果なども見えるようになる。

基本的施策の施策別シートは、案のとおり進め、経営的施策の施策別シートは再度検討するということが良いか。

【その他委員】 (異議なし)

(3) その他

【久会長】 「その他」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (小中学生のアンケート、団体ヒアリング、総合計画特別委員会について説明)

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

— 了 —